

# AIが書くというのと、人が読むというのと

東野 司

さて、いきなりですが、問題です。

以下は、あるショートストーリーの冒頭部分を引用したものです。この中に、AIが書いたものが複数あります。

どれだかおわかりになりますか？

1

結局おれは、宇宙には行つた。月にも、火星にも行つたし、小惑星にも行つた。

ヘッドランプの明かりを頼りに、折りたたまれていたカーボン製フレームを展開し、ハンドルとサドルを取り付ける。サドルに跨りペダルを踏み込むと、ドライブシャフトを介して駆動ローラーがゆっくり回る。ギアシフトをテスト。シフターを操作するたびに、ローラーのハブに内蔵されたギアは滑らかに切り替わり、脚に感じる負荷が変化していく。

だが、ひとつ、やり残したことがある。

2

その日は、雲が低くたれ込めた、どんよりとした日だった。部屋の中は、いつものように最適な温度と湿度。洋子さんは、だらしない格好でカウチに座り、くだらないゲームで時間を潰している。でも、私には話しかけてこない。

ヒマだ。ヒマでヒマではない。

この部屋に来た当初は、洋子さんは何かにつけ私に話しかけてきた。

「今日の晩御飯、何がいいと思う？」

「今シーズンののはやりの服は？」

3

プロローグ

「我々のコミュニティに2人、AIが紛れ込んでいるという連絡がありました」